血清インスリン値と右側結腸腺腫性ポリープおよび右側結腸過形成性ポリープとの関連

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2017-10-05
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者:
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/19220

学位授与番号	乙第 1629 号
学位授与年月日	平成 19 年 1 月 17 日
氏　　名	吉田　功
学位論文題目	Serum Insulin Levels and the Prevalence of Adenomatous and Hyperplastic Polyps in the Proximal Colon (血清インスリン値と右側結腸腺腫性ポリープおよび右側結腸過形成性ポリープとの関連)
論文審査委員	主 査　教 授　山岸　正和 副 査　教 授　金子　周一 太田　哲生

内容の要旨及び審査の結果の要旨

近年本邦において高脂血症、肥満、糖尿病など生活習慣病が増加している。また本邦における大腸癌罹患率も上昇の一途をたどっている。大腸部位別では欧米、本邦ともに右側結腸癌が増加しているのが現状である。近年、大腸癌および大腸腺腫と血清インスリン値との関連が報告されている。また肥満および糖尿病と右側結腸癌との関連、右側過形成性ポリープと大腸癌との関連も報告もされている。しかし大腸部位別にインスリンと大腸腫瘍との関連を示した報告はまだない。そこで今回、血清インスリン値と大腸病変(腺腫、過形成性ポリープ)との関連を大腸部位別に検討した。

我々の関連施設において大腸内視鏡検査を施行し、基礎疾患の問診、診察所見、空腹時血清インスリン値が得られた 343 症例を対象とした。大腸腺腫および過形成性ポリープを、それぞれ病変の有無と分布により、無病変、右側結腸限局有病変、左側結腸限局有病変、両側結腸有病変の４群に分けた。無病変をそれぞれの対照群とし、血清インスリン値と各部位の病変との関連を、年齢、性、飲酒、運動、喫煙、他病変の有無で補正し、多項ロジスティック解析にて検討した。

血清インスリン値は右側結腸限局腺腫と有意な関連を認めた。(OR:1.8[1.2, 2.5] P=0.002) また血清インスリン値は両側過形成性ポリープ(OR:1.7[1.1, 2.5] P=0.015)および右側結腸限局過形成性ポリープ(OR:1.5[1.0, 2.1] P=0.048)とも有意な関連を認めた。

本研究では血清インスリン値と右側結腸腺腫および右側結腸過形成性ポリープとの間に有意な関連を認めた。肥満、糖尿病で右側大腸癌が増加するという報告、さらに近年日本で右側大腸癌が増加しているという事実と考え合わせると今回の結果は興味深いと思われた。インスリンが IGF－１受容体を介して細胞増殖に作用することを踏まえ、高インスリン血症は右側結腸腫瘍の後天的危険因子の一つになり得ると思われた。以上本研究は大腸腫瘍の診断、予防に寄与する価値ある論文と評価された。